

母乳摂取期間とう蝕と関連

【背景】

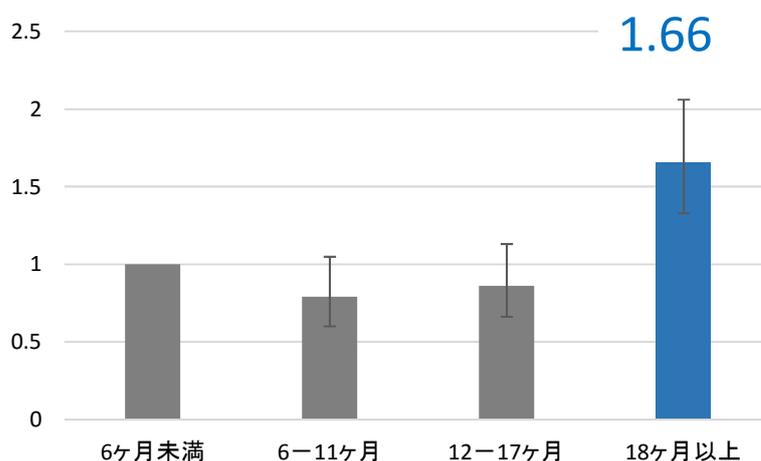
母乳摂取には多くの利点がありますが、母乳摂取とう蝕との関連に関する研究結果は一致していません。母乳摂取がう蝕に予防的であるという研究もあれば、母乳摂取はう蝕に良くないという研究結果もあります。結論を得るために、研究結果を蓄積していく必要があります。今回、福岡小児健康調査のデータを活用して、母乳摂取期間と3歳児のう蝕との関連について解析しました。

【方法】

調査に参加いただいた2109名のうち、今回の解析に使用する変数に欠損のない2056名の小児を解析対象者としてしました。う蝕の情報は、3歳児健診の歯科健診結果を母子健康手帳から質問調査票に転記頂くことで収集しました。母乳摂取状況や、その他の情報も質問調査票から得ました。性別、歯磨き頻度、フッ素の使用、歯科定期健診、間食頻度、妊娠中の母親の喫煙、出生後の家庭内喫煙、両親の教育歴を交絡因子として補正しました。

【結果】

う蝕の有症率は20.7%でした。母乳摂取期間が6ヶ月未満を基準にすると、母乳摂取期間が6-11ヶ月、12-17ヶ月、18ヶ月以上のprevalence ratioはそれぞれ、0.79、0.86、及び1.66で、18ヶ月以上の母乳摂取は、う蝕と統計学的に有意な正の関連がありました。



【結論】

今回の解析では、18ヶ月以上の母乳摂取はう蝕と有意な正の関連を認めました。一方、統計学的に有意ではありませんが、6-17ヶ月の母乳摂取はう蝕と負の関連を認めました。

【出典】

Tanaka K, Miyake Y. Association between breastfeeding and dental caries in Japanese children. J Epidemiol. 2012; 22: 72-7.